



映画でつながる。未来がはじまる。
By UNITED PEOPLE

7組 9番 名前 小野 悠

【映画】 ジェンダー・マリアージュ
全米を揺がした同性婚裁判

【レビュー】

米国 カリフォルニア州 では 2008年に同性婚が認められていた。
だが提案8号によって再び禁止。それを2組のカップルと弁護士が
5年かけて結婚の権利を得るまでのドキュメンタリー。

名言集

「信条、宗教よりも2人が幸せなことが大切」原告の両親

「私は保守的な町で育ちました。住民の多様性に乏しい環境で
育ったからこそ法的保護は重要だと思います。」原告の1人

「これは私だけの問題ではありません。ですが私自身の問題です」原告の1人

感想

1番に衝撃を受けたのは保守派とされているテッドが弁護士
として原告側に入ったことだ。彼は「愛する2人が系婚する
権利は保証すべきである」と言った。彼は保守派からも批判を受
けていたがそれよりも自分の考えを通して行動していた。とて
も勇敢であり、それが正しい市民のありかたなのかとも思った。

また原告の1人が「ドメスティック・パートナー制度(結婚と同程
度の権利を保証)を利用すると不平等を認めることになる」と言っていた
ことに考えさせられた。結婚と同じ権利があっても結婚ができない
ということは不平等であり「結婚」という重さがあるのだなと考えた。日本
でもパートナーシップ制度などがあるがそれは系婚ではないのだな
と思った。

現在日本では男女間の結婚しかおとめられていない。私は系婚を
する権利は同性同士にもあたえられるべきであると思っている。だ
がそのために対話をすすめていかないといけないなと考えた。

今とどのような活動が日本で行われているのかと思いインター
ネットで調べた。そして今はLGBT平等法を求めてWeb上
で署名活動をしている。このような活動が広がっていくことでア
メリカで起きたような同性婚を求めよう活動が出てくると思う。
たまたま見た映画から出会ったテーマだが今後も追ってみたい
と思う。